

「VNEWS」のおおぞ

問 循環バスの運行について

「ぐるりんおおぞ」の市民の皆様への周知については、広報「大洲」1月号の中で、「はしまります！新たな公共交通の取り組み」として、バスの運行内容、路線図、時刻表などを掲載しています。また、3月号にも、表紙にカラーのバスの写真を載せ「ぐるりんおおぞ出発進行！」として関連記事を掲載し、皆様にお知らせをしています。

そのほかにも、市のホームページを初め主要な施設・市内中心部を循環するバス「ぐるりんおおぞ」



市内中心部を循環するバス「ぐるりんおおぞ」

ポイントの改善となるものです。実質公債費比率については、平成17年度決算数値で23・1%となったことから、公債費負担適正化計画を策定し、財政健全化に取り組んできたところです。目標としている地方債の許可団体から、協議団体となる18%未満とするため、計画的な地方債発行と抑制に取り組み、身の丈に合った財政運営により、さらなる改善が見込まれ、減少するものと考えています。今後、事業の厳選と財源の重点配分を行い、財政の健全化を最優先とした市政運営を進めていき、平成24年度決算において18%を切るという目標は確実に達成できると考えています。平成21年度以降も税収や地方交付税の減収などによる一般財源不足が見込まれ、大変厳しい財政運営が予想されます。しかし、財政の健全化を最優先に、事業の厳選と財源の重点配分を行っていきます。借入金残高も順調に減少しており、決して大洲市財政が破綻することはありません。

へのポスター掲示、さらには市内公共交通時刻表の配布などを行い、その周知に努めている状況です。運行当初は運行内容についての問い合わせも多く、市民の皆様には大変御迷惑をおかけしましたけれども、運行から1カ月ほど経過してからは電話とか市民ポスト、バスの中に設置をされています御意見箱などによると、感謝の声も多く寄せられています。

1日当たりの平均利用者数については、1月は約64人でしたが、2月は約91人と徐々に増加しており、引き続き公共交通の利用促進につながるように、さまざまな手法や機会を活用しながら、その周知を図っていきたくと考えています。

茶業の振興

問 今後の振興計画について

茶業の振興については、本市における耕作放棄地の解消と、第1次産業の底上げを目的とし、長期的展望に立った戦略的作物と

して推進を図っているものです。平成19年度よりJA愛媛たいきが国営団地で約40アールの実証栽培を行っており、県の農業指導班、JA及び市の担当者による新規作物検討班を設置し、栽培方法や土壌分析調査など、緑茶栽培推進の取り組みを進めてきたところです。現在、事業主体である農業生産法人となり得る候補者について、JAを初め生産者を模索している状況です。また、栽培候補地としては、機械化による管理運営が可能な国営パイロット団地を想定しており、主要団



全国的に有名な静岡県牧之原市のお茶

地で地質調査を実施したところ。茶の収穫までには約5年程度の育成が必要とされており、それまでの投資が大きな課題ですが、事業主体が決定次第、関係機関と調整を図りながら、順次生産体制の確立に向けて推進を図っていきたくと考えています。

治水事業負担金

問 自治体負担金について

山鳥坂ダム建設事業に伴う地元自治体の組織については、国より山鳥坂ダム実施計画調査の申し入れがあった昭和61年に旧肱川町において、国や県と水源地域との連絡調整を目的としたダム対策室を設置したのを皮切りに、現在まで関係住民の相談業務や地域振興に向けた計画及び調整、起業者との調整事務を行っています。

その事務に伴う費用については、昭和61年度から平成19年度までの22年間で約5億8,700万円です。